

仕手株投資で生き残る、唯一の条件。

仕手株投資は、
「初動取引がすべて」である。

なぜ、すべてなのか？



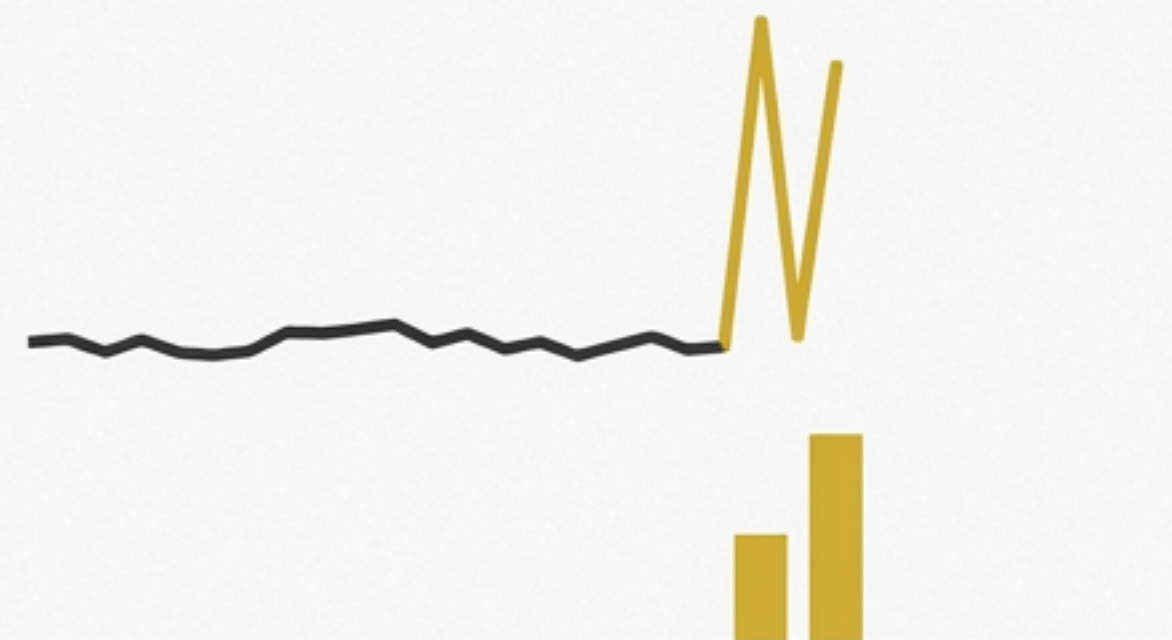
答えは単純です。

そもそも取引しなければ、損失はあり得ない。

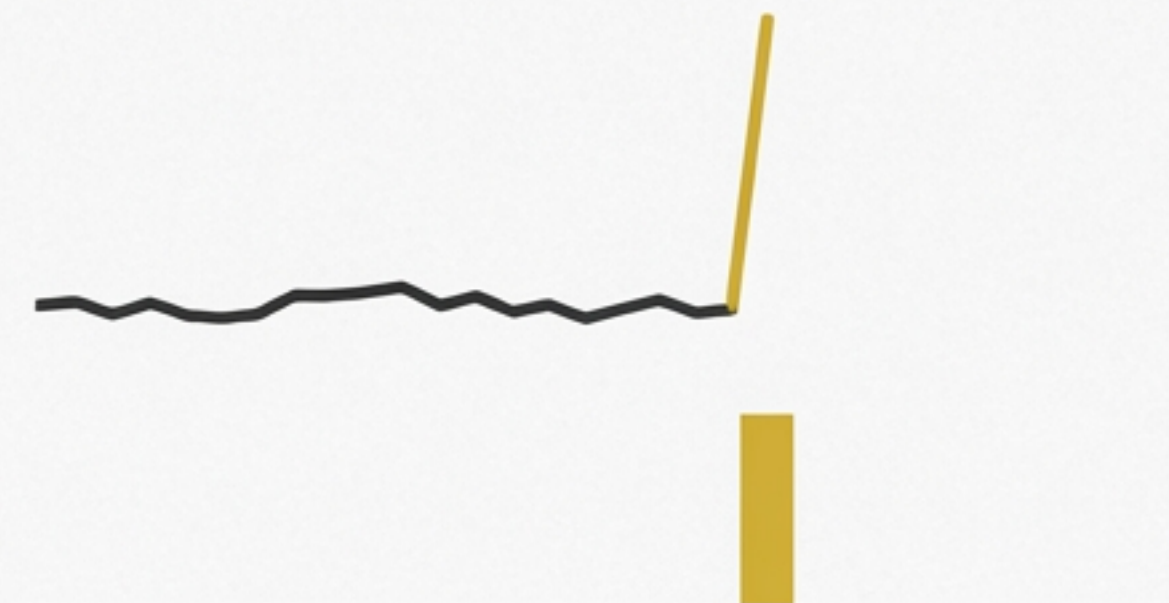
つまり、唯一の取引であるべき「初動」を正確に判断することこそが、損失を最小限にし、株式投資の世界で生き残ることに直結するのです。

しかし、その初動の判断が極めて難しい。

本物の初動？



罠？

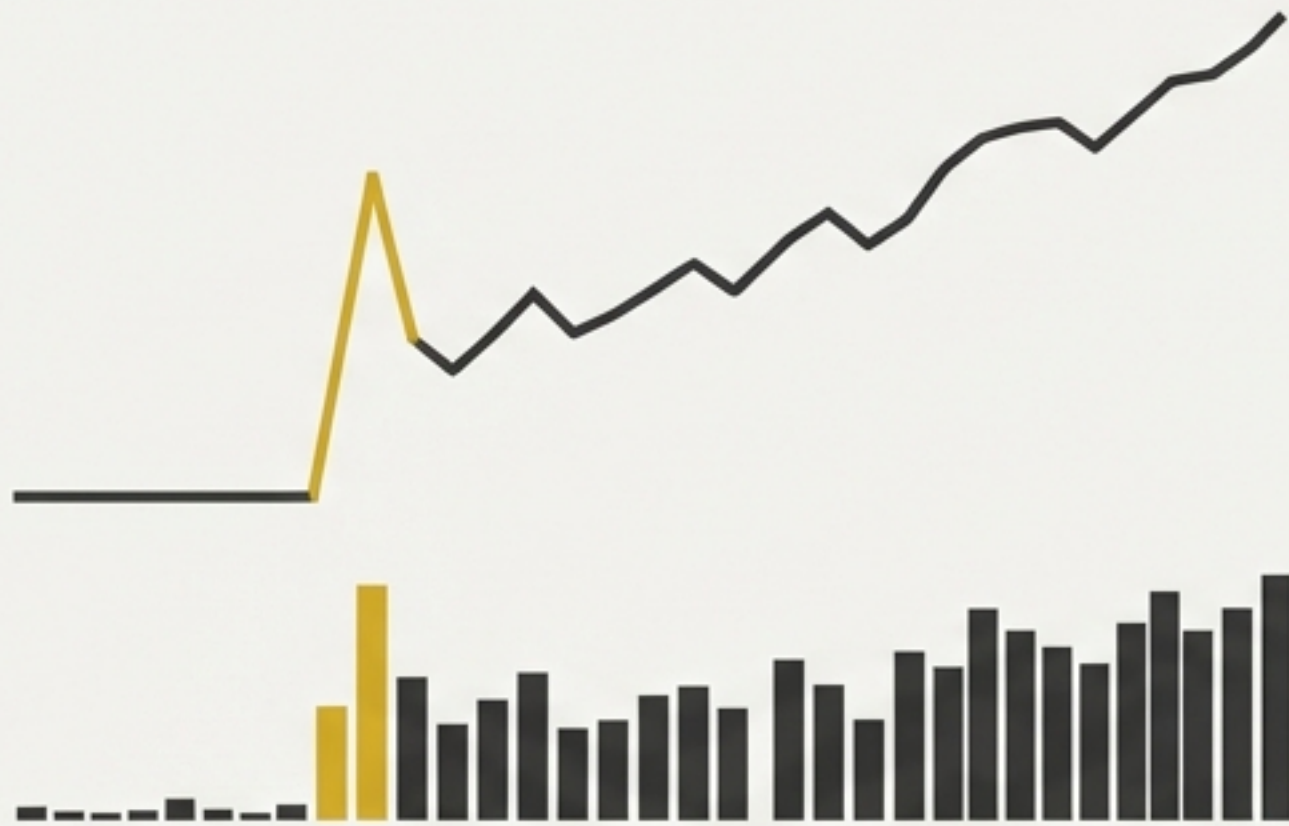


監視していると、必ず「初動？」と思える瞬間があります。

しかしその多くは、後に「騙し上げ」や「ただの(急)の買上げ（株集め）」だったと判明します。

問題なのは、株価が出来高を伴って上昇した「瞬間」の動きは、
本物と全く同じに見えることです。

罣の正体：「騙し上げ」と「結果論」

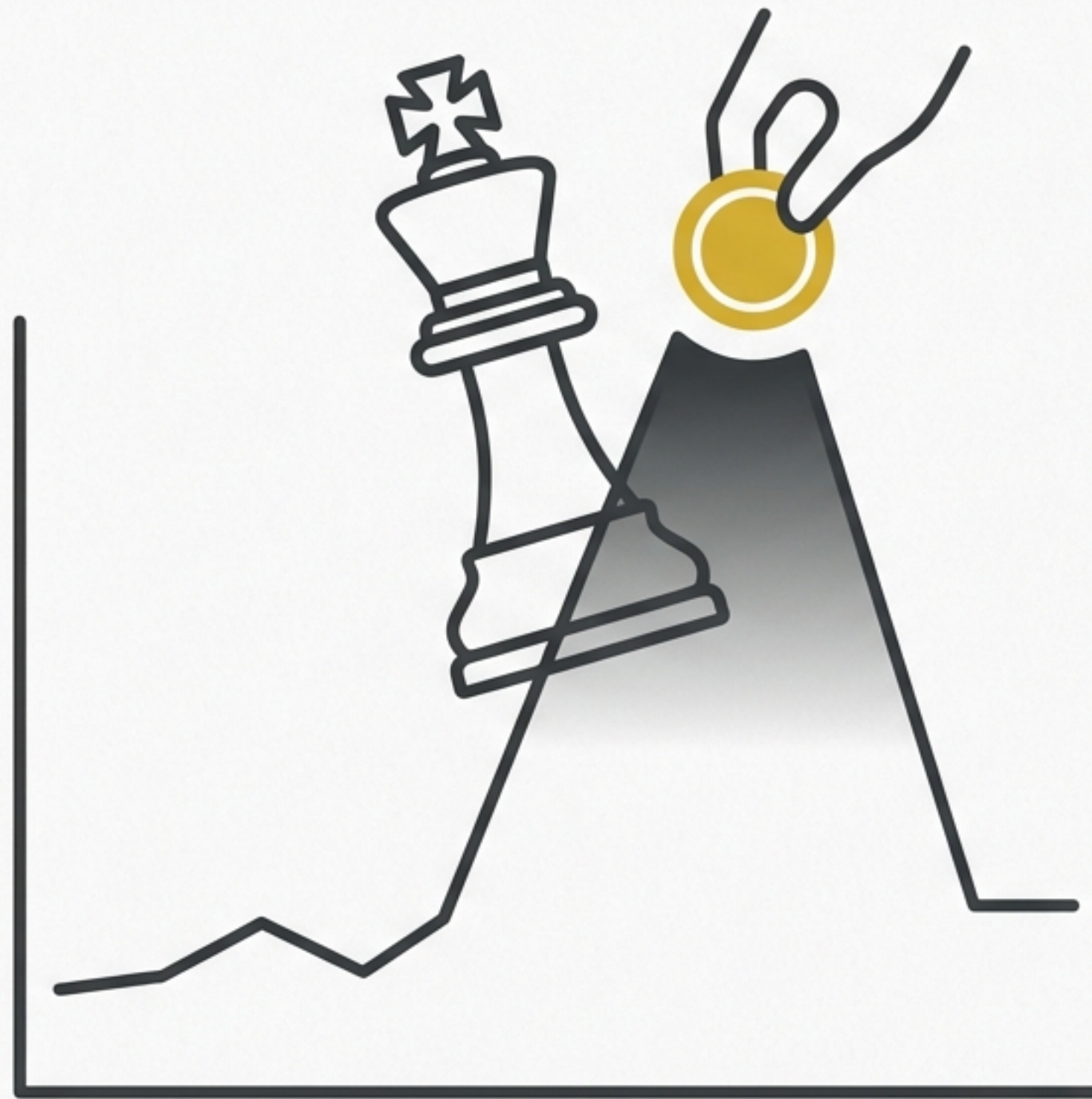


本物の初動 (Real Initial Move) :
出来高を伴った上昇が「続く」。



騙し上げ (False Rally) :
出来高を伴った上昇が「一時的」。

後になってから初動ではなかったと判断できても、
それは単なる「結果論」であり、取引においては全く無意味です。

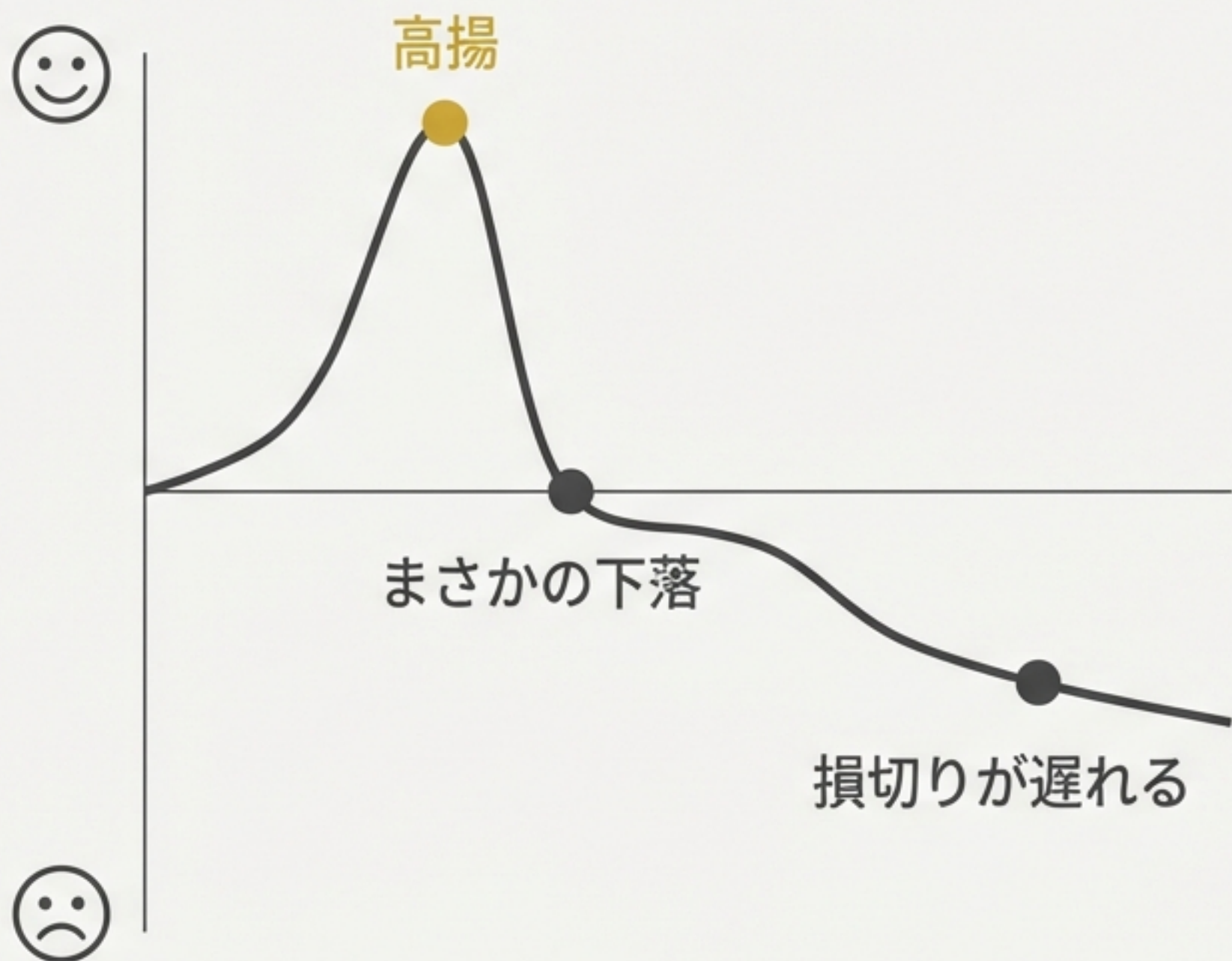


**「騙し上げ」は、
意図的に仕組まれている。**

仕手筋（投資ファンド）は、個人投資家が
初動で取引することを嫌います。
彼らが望むのは、個人投資家が上昇しきっ
た段階で取引してくれることです。

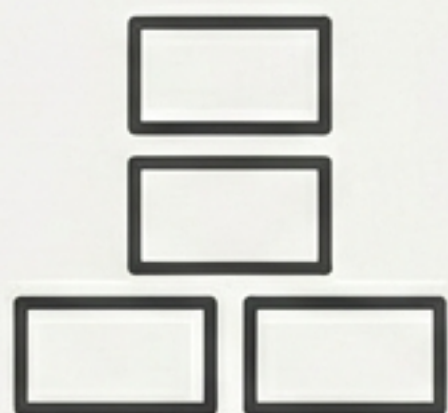
個人投資家に初動で取引させないために、
彼らが騙し上げを仕掛けるのは当然の戦略
なのです。

仕手筋の思う壺：損失が拡大する心理的罠



1. 一度は上昇するため、気持ちが高ぶる。
2. しかし、買値よりも下落。まさかの展開に、損切りが確実に遅れる。
3. 騙し上げの事実気づけず、ズルズルと下落し、損失が拡大していく。

では、本物の初動を起こす条件とは？



株集めの完了

これは言うまでもありません。



良好な相場環境

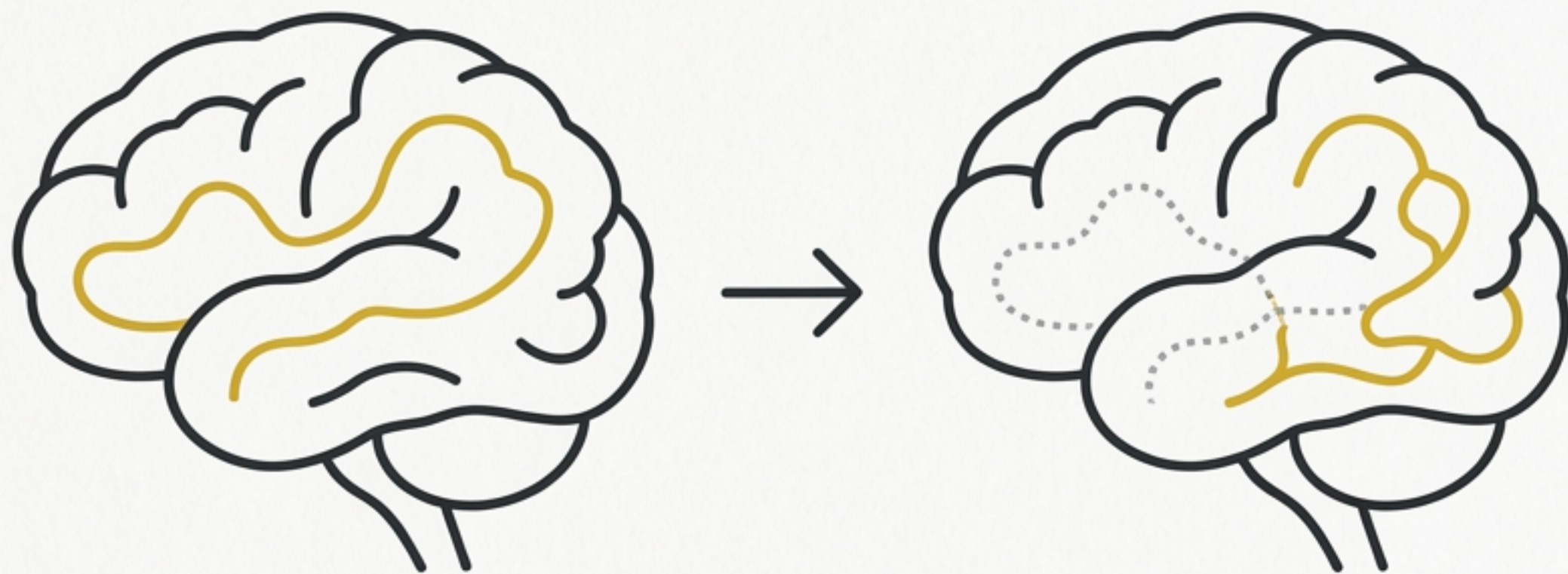
日経平均が安定し、物色が
中小型株にも向かう状況。



IRニュース

好材料IRがきっかけになる
ことも少なくなりました。

ただし、最近はこの条件と初動の関連性が薄れてきています。
好材料IRがきっかけになることも少なくなりました。



なぜ、パターンは 通用しなくなるのか。

答えはただ一つ。
仕手筋の動きは、
常に変化しているからです。

ネット社会では、単純な動きや知ら
れすぎた動きはすぐに分析され、
役に立たなくなります。
個人投資家を操るため、彼らは常に
手法を進化させるのです。

残された道は、ただ一つ。



初動「前」の動きを、徹底的に分析するしかない。

「徹底的な分析」が意味すること



$$f(x) = \sum (a_i + b_i)^2$$

それは、多くの分析結果から統計を取り、「ある特定の条件が確認されれば、近いうちに初動が起こる可能性が高い」という自分だけの「方程式」を見つけ出すことです。

しかし、その方程式がいつまで通用するかは分かりません。通用しなくなったことを誰よりも早く察知し、再度、違う方程式を見つけ続けなければなりません。

これは、不労収入ではない。

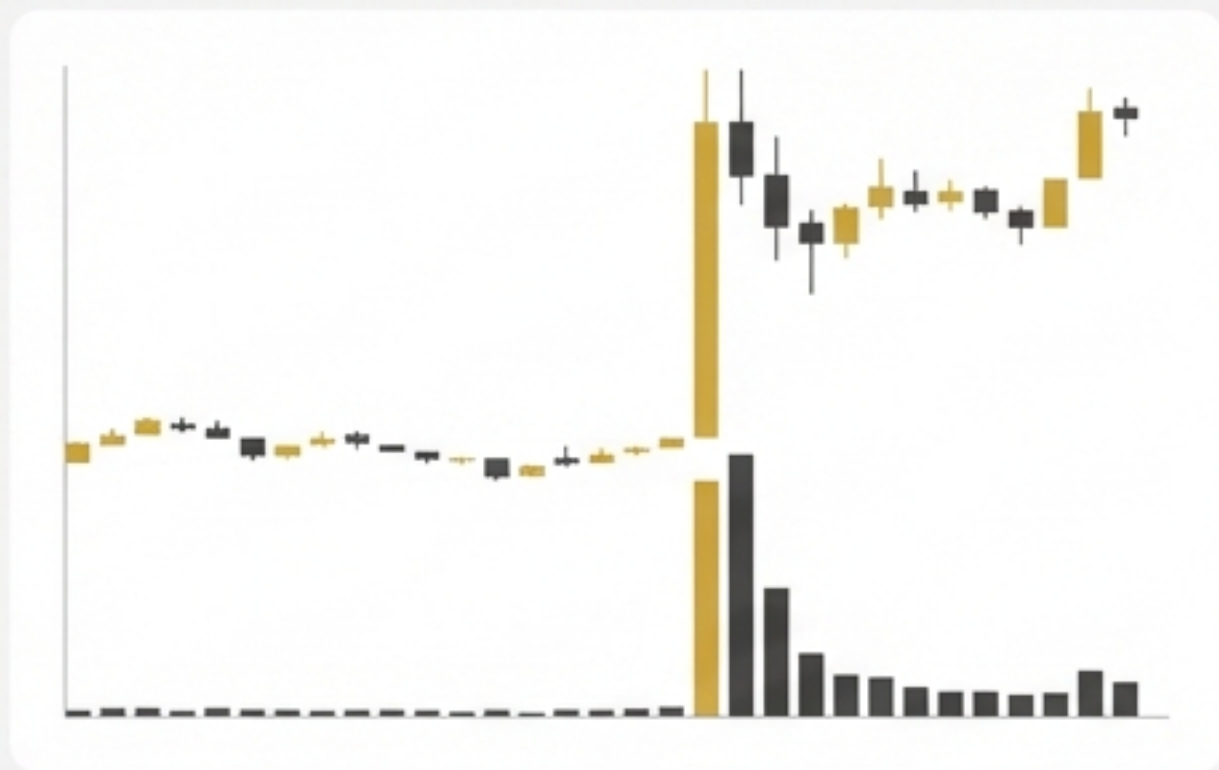


仕手株投資は、一見不労収入のように思えますが、
実際は極めて過酷な「労働収入」です。

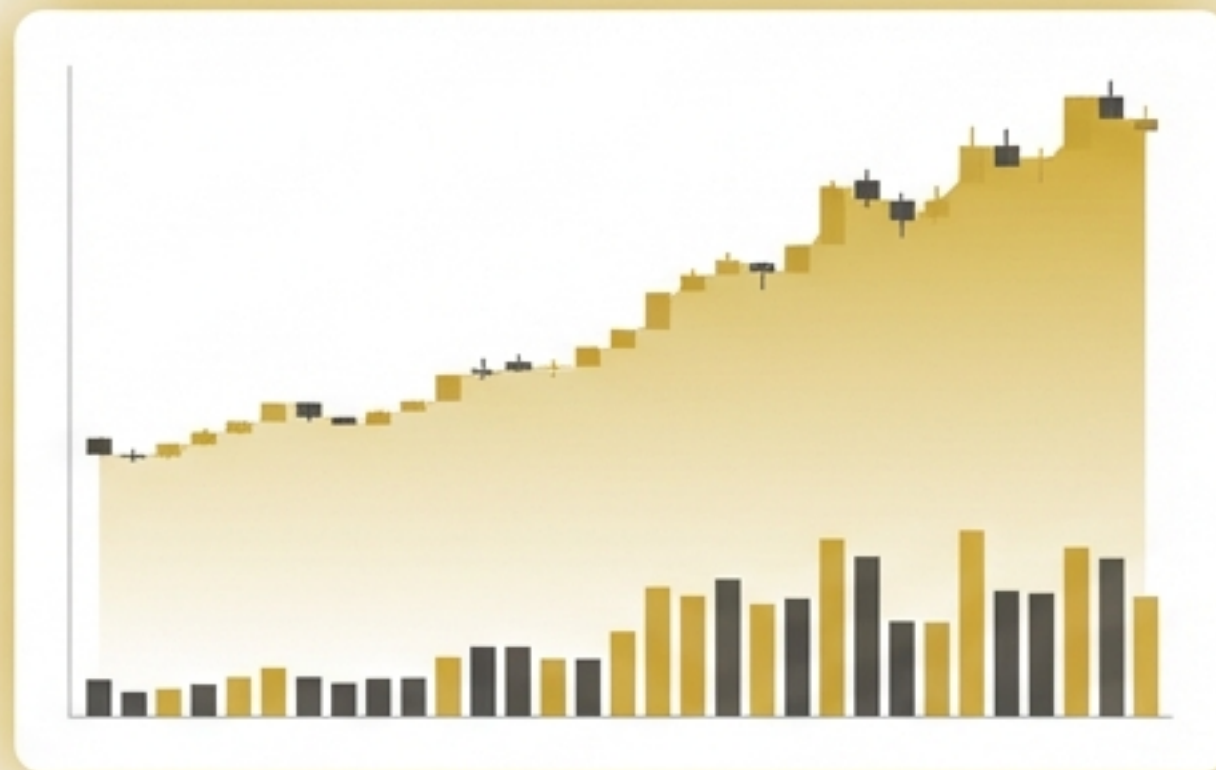
頭を使い、努力し続けることなしに、大金を稼ぐことはできないのです。

最新の傾向：隠されるようになった初動

従来の初動



現在の傾向



最近、仕手筋は初動を隠すようになってきました。出来高と上昇の規模が以前より小さくなり、「目立たずに徐々に上昇する」形が増えています。

これにより、「なんとなく初動かな」という曖昧な取引は、これまで以上に「騙し上げ」に繋がる危険性が高まっています。

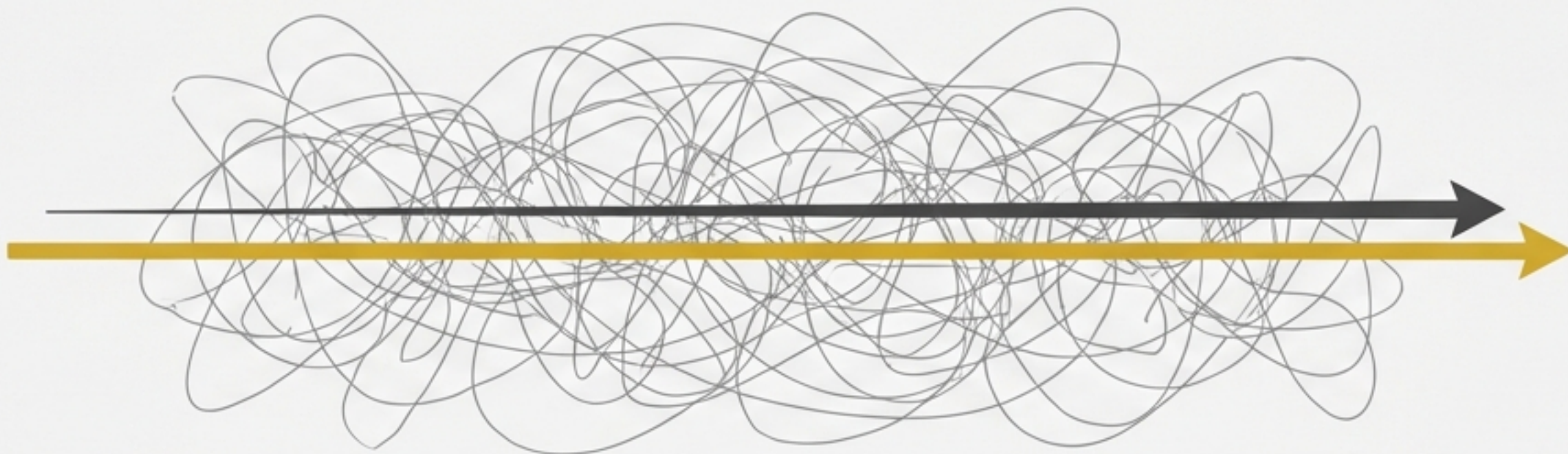


なぜ、私の「方程式」を公開しないのか

有名な投資家が安易に手法を公開しないのには理由があります。

仮に公表したところで、その手法はいつか必ず通用しなくなります。それは無意味であるばかりか、かえって損失を出す投資家を増やすことにもなりかねません。

道は続く。スキルアップの旅へ。



仕手株投資で確実に利益を出し続けるためには、知るべきことが無数にあります。
この戦いを一人で続ける必要はありません。

仕手株.コムでは、日々の株価動向の分析を始め、
真剣な投資家がスキルを磨き続けるための情報を提供しています。
今この瞬間を、新たな一步のきっかけに。

仕手株.コム
shitekabu.com